



## 北中生へ 期待感

### 結団式で感じたこと

昨日の13時05分。結団式開始5分前。体育館に入った瞬間、ものすごい“気”を感じた。すでに整列を終えている全校生徒から感じた“気”は「やってやろうぜ!」という気合いの入った“気”だ。

そして実行委員・応援団の声や全校生徒「いち、にっ、さん!」のかけ声、「ハイッ!」の返事。その迫力ある声から、一人ひとりの気合いがビシビシ伝わってきた。

声だけでない。目が違っていった。「最高の体育大会をつくりあげる」というやる気に満ちあふれた目。団の色を決める「全力スローガン」で負けたくないという闘争心に火がついた燃えるような目。実行委員や応援団の話しをしっかりと聞こうとする真剣な目。

そうした一人ひとりの熱い思いが、最後の「全力スローガン」で爆発した。7分間の練習。応援団長や副団長の指示のもと、上半身を後ろにそらし、声を張り上げながら叫ぶスローガン。最初バラバラだった声はわずか7分間で、一つにまとまっていった。

そして全力スローガンの披露。「気合い」は最高潮に達し、一人ひとりの思いが火山の噴火のように大爆発した。

今年の体育大会。あの体育大会以上のものができるのか心配だった。しかし、それは杞憂だったようだ。結団式後、私は心の中でつぶやいた。「こりゃ、すげえ」

※杞憂…心配する必要のないことを、あれこれ心配すること

### やめたガッツポーズ「日本一の意識」

今年の春の選抜高校野球で大阪桐蔭高校が5度目の優勝を果たした。4月11日(土)の朝日新聞に大阪桐蔭高校に関する記事がのっていた。タイトルは『やめたガッツポーズ「日本一の意識」』だった。記事の主な内容はこうだ。

準々決勝でホームランを打った選手がガッツポーズをしながらダイヤモンドを回っていた。しかし、3塁を回る直前にガッツポーズをやめて、走るスピードを上げた。それは三塁コーチが「しっかり走れ」と伝えたからだった。大阪桐蔭高校はすべての行動基準を「日本一」に置いているという。ランニングメニューは最後の一步まで手を抜かない。打撃練習でも一球目から真剣にスイングをする。授業や生活の面でも日本一を目指す。

私はこれまで大阪桐蔭高校を誤解していた。「大阪桐蔭高校は全国からすごい選手を集めているから、普通にやっても日本一になれる学校だろ」と決めつけていた。しかし、日本一になるために、練習・試合中の動き・生活態度・勉強を日本一にする。そして、日本一になるために、血のにじむような努力をする。野球だけじゃなく、すべての面において。

さあ、今日から体育大会の練習が始まった。結団式の終わりに生活委員長が言った。「世界一の体育大会にするには、服装などの面でも世界一にしなければならない」

練習や服装、集合時間、そして、普段の授業。すべての面で一番を目指し、努力することで、一人ひとりの個性の花が開く、最高の体育大会が実現する。

